

## 山ぼうし

第33号 平成19年12月21日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



## 今年の漢字「偽」

## 校長 兼 平 栄 補

2007年の世相を漢字で表す恒例の「今年の漢字」が「偽」に決まり、京都清水寺の森貫主が揮毫した様子が報道された。日本漢字能力検定協会が全国公募したところ、9万通以上の応募があり、「偽」は断然トップの1万6千通余りであったそうである。

食品偽装などが次々と発覚したり、政府の年金問題などでの公約違反や官僚のゴルフ接待など国民に対する偽りはあきれるばかりである。

私としては、「欺」（欺瞞）や「謝」（謝罪）でもよかったのではないかと思う。食品偽装した会社幹部や亀田一家そして朝青龍などが、利用者やファンを欺いたことを謝罪する場面が連日のように報道された。謝罪そのものが偽装であったような人もいるが…。

ところで、先日ある会社経営者から「本校の調査書の評定は、本当に絶対評価なのか」と尋ねられた。言外に「評定と実力には乖離があるぞ!」との指摘である。調査書に偽装は決して無い。評定や欠席数など学習指導要録に記載してある通り間違いなく記入している。その点においては、偽装は無い。

評定そのものは、単にテストの点数のみではなく、その科目に対する関心、意欲、態度（いわゆる平常点）も勘案した総合的評価である。ストレートに実力を表すものではない。ただし、関心を持ち、意欲的に取り組んだ場合、内容も定着し、実力となるはずである。その意味では評定≒実力である。平常点は単

なるおまけではない。平常点のみを期待して努力が十分でない場合は、実力偽装になる恐れがある。科目によっては、平均点がインフレ気味のものもある。この場合も実力偽装になる。評価の仕方にも配慮が必要である。

会社経営者から、工業高校の定員を半分にして、入学したい者だけを入学させ指導せよ（県南N社）とか、本当に卒業資格がある者を卒業させているのか（沿岸F社）と厳しい指摘を受けている。優秀な人材の供給を期待しての発言であったと思う。宮古管内のある経営者は、「人手」が足りないのに、能力に不満が残るが、そのまま社員として受け入れざるを得ないという経営者もいた。しかし、「人手」が充足されれば、求めるのは「人材」である。現実には、軽自動車のエアコン用コンプレッサを製造している県央部の企業は、校種に限らず求人し、23名の受験者中6名を厳選して採用している。より広く求人を言い優秀な「人材」を確保している。遠からず宮古管内も企業が成熟し、採用面では前出の企業と同様になると思う。

実力偽装を行えば、偽装を行った企業が疲弊したように、学校の信用が失われる。真の実力が備わるよう教師、生徒双方が努力しなければならない。学校現場に「偽」があってはならない。

## 1月行事予定

- |          |                   |
|----------|-------------------|
| 1月11日（金） | キャリア教育フォーラム in 宮古 |
| 1月15日（火） | 授業始め式、休み明け試験      |
| 1月16日（水） | 身長体重測定            |
| 1月22日（火） | 情報技術検定            |
| 1月24日（金） | 工業クラブ生徒研究発表会（北上）  |
| 1月30日（水） | 推薦入学試験            |
| 1月31日（木） | 2年保護者説明会          |



# ものづくりコンテスト2007 電気工事部門県大会優勝・準優勝

平成19年度岩手県技能競技大会青年技能競技会高校生の部高校生ものづくりコンテスト2007岩手大会「電気工事部門」が11月8日(木)に黒沢尻工業高等学校を会場に行われました。その結果、本校代表の電気電子科2年菅原陽君が優勝、同じく電気電子科2年の齊藤圭悟君が準優勝と上位を独占しました。

大会には県内の工業高校電気系学科から14名の生徒が参加し、実習等を通して身につけた技術を競い合いました。電気工事部門の課題は、縦1,800×横1,800mmの垂直パネルにオール電化を想定した住宅の配線工事を行うもので、2時間30分の制限時間の中で、その正確さと仕上がり、安全作業等が採点されます。2名は9月中旬から大会へ向けて放課後遅くまで練習してきました。今回の課題は、実習で習う電気工事よりも難易度が数段高く設定されているため、今まで使った事のない工具や材料に手こずりながらも一生懸命練習に取り組んでいました。中でも工業祭で2日間電気工事競技の実演を行い、一般の方を含む多くの方々が見ている中で課題を完成させるなど、技能だけでなく精神的な面でも逞しく成長していきました。



大会当日は少し緊張の様子が見えましたが、競技が進むにつれ徐々に落ち着きを取り戻し、実力を出し切った結果が上位独占という快挙に繋がったと思います。優勝者の菅原君は岩手県知事賞を受賞すると共に、来年6月に宮城県で行われる東北大会へ岩手県代表として出場が決まり、決意を新たにしています。今後の大会でもいい結果が出せるよう、電気電子科としても取り組んでいきたいと思っています。最後に、大会参加にあたり多くの方々にご協力をいただきましたことに感謝申し上げます、報告と致します。

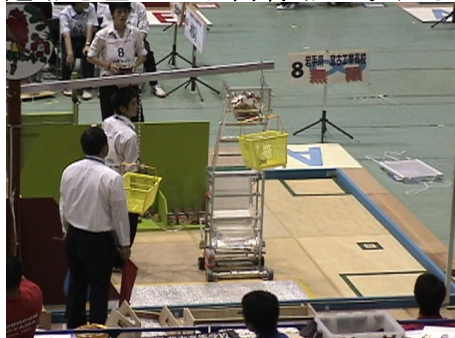
## 第15回全国高等学校ロボット競技大会 電気科3年「無限(インフィニティー)」チーム参加

平成19年11月24日(土)に沖縄県宜野湾市で第15回全国高等学校ロボット競技大会が行われました。

今年の大会テーマは『守礼の国のロボット収穫祭』です。ルールの特徴は、得点の対象が操縦者から見えない場所にある事です。そのため、操縦者とナビゲータが「ユイマール(助け合い)」精神で競技を進めなければなりません。

大会には全国から128チームの参加があり、宮古工業からは電気科3年「無限(インフィニティー)」チームが参加しました。

県大会で全国大会出場権を得てから全国大会までの1ヶ月間、メンバーは県大会での問題点を基により高得点が取れるよう、ロボットの改良・調整、操縦練習を繰り返しました。



色々な問題を解決しなければならず大変な1ヶ月でした。

大会1回戦は、北海道美唄工業高校[namara]チームとの対戦でした。結果は95点对345点と1回戦敗退でした。全国大会の独特な雰囲気にもまれたり、公式練習がロボットの不調により十分にできなかったなど、実力を発揮し切れなかった残念な結果でした。

4月から全国大会参加を目指して続けてきたロボット製作で多くのことを学ぶことができました。そして、難しいルールでさえパーフェクトを出す全国のレベルの高さに改めてものづくりの奥の深さを感じた大会となりました。

